

介護の現場にICT

津軽老人福祉協会が弘前で研修会

活用のポイント説明

トーナとラグリーを会

場に第46回研修会を開いた。参加者は情報通信技術（ICT）を介護の現場で活用する方

法などに耳を傾けた。

津軽地域の特別養護老人ホームの職員ら約100人が参加。分科会ではケア、給食、相談、在宅、管理事務の各部門に分かれ、講師から説明を受けて知識を深めた。

その後行われた記念講演では、ビブリックの竹下康平代表取締役（弘前市出身）が「介



ICTが介護に与える影響について講演する竹下さん

護業界におけるICT活用のポイント」と題して、介護の現場がICTとどう向き合うべきかについて話した。

竹下さんは、少子高齢化を背景に、介護の現場で働く職員の負担増は避けられないとし

「職員が満足しないと入居者、利用者も満足できない」と説明。事務作業など介護以外の業務を減らし、そのために「ICTを目的ではなく手段として用いるべき」と訴えた。最初は慣れなくても粘り強く小さな成果を積み重ね、事業所内、事業所間、地元ICT業者との連携など、取り組みを継続的に続ける重要性を指摘した。

（築城隼人）

津軽地区老人福祉協会（三上貴生会長）は25日、弘前市のフォル